

近

年、全国各地で気候変動による風水害や、地震などの災害が発生しています。

甚大な被害につながる災害も多く、これまでに経験したことのないような災害がいつどこで発生するのか分かりません。

災害の被害を抑えるためにはどうしたらよいでしょうか？私たちが日ごろから何を意識して、どう備えるのか、一緒に考えてみませんか。

自助

自分の命は自分で守る

① 気象情報・避難情報には細心の注意を

台風等の気象情報には十分注意し、早めの避難を心がけましょう。また、避難情報も注意し、他人事と思わずに的確に避難行動をとりましょう。

② 防災マップの確認を

自宅や自分の居る場所を防災マップ（ハザードマップ）で確認し、大雨による浸水などの災害リスクや避難場所・避難所の情報を確認しましょう。

※地震に備えた「石倉市地震防災ガイドブック」や風水害に備えた「石倉市浸水ハザードマップ」は市ホームページで見ることができます。

いつかくる は今かもしれない

災

害の被害を抑えるためには、自助（自分の身は自分で守る）、共助（地域で助け合う）、公助（市や消防などの公的支援）の3つの助が必要です。

大きな災害が発生すると公助は時間がかかる場合があります。そのため、被害をできるだけ抑えるためには、自助と共助がとても重要になってきます。日ごろから自分で行える備えや行動を把握し、自主防災組織の活動に積極的に参加するなど、災害に強い地域を作りましょう。

共助

地域の助け合いは日ごろからのつながり

① 防災訓練に参加しましょう

各小学校区毎に防災訓練を行っています。災害時に「だが、いつ、どこで、何をするのか」を地域で確認して避難場所の確認や避難所運営について確認をしておきましょう。

② 避難行動要支援者名簿

市では災害時に一人で避難することが困難な人を名簿にした避難行動要支援者名簿を作成しています。災害時に一番早く助けてくれるのは近所の人です。



岩倉市地震防災
ガイドブック



岩倉市浸水
ハザードマップ

③ 家族防災会議でいざというときに備えを

災害時には通信が途絶して連絡がとれないことがあります。そうした事態に備えて、日ごろから避難場所までの経路や合流場所について話し合っておきましょう。特に小さいお子さんやお年寄りがいるご家族は一人ひとりの役割まで決めておくといざというとき落ち着いて行動できます。

④ 防災用品の準備を

災害時は物流の停滞や電気、水道等のライフラインの途絶等が想定され、感染症等の影響により外出に制限がかかることもあります。水や食料は最低3日分（できれば1週間分）、備蓄しましょう。また、貴重品や常備薬などは非常持ち出し袋にまとめて持ち出しやすいところに準備しておきましょう。

特集 防災・減災

避難行動要支援者名簿とは

災害時の避難に備えて、支援が必要な人の名簿「避難行動要支援者名簿」を市で作成しています。また、個人情報提供の同意を得たうえで、自主防災会やその他関係団体と名簿を共有することにより、日ごろの見守りや防災訓練などにも活かすことができます。

市で対象者を抽出し名簿を作成

名簿の提供同意あり

名簿の提供同意なし

災害のない平常時から備える

- ・ 自主防災会等関係機関で共有
- ・ 緊急連絡先やかかりつけ医などを記入した個別避難計画を作成
- ・ 日ごろの見守りや防災訓練に活用

大規模災害時に名簿を活用

名簿の掲載対象者

- ① 要介護認定3・4・5を受けている人
- ② 身体障害者手帳1・2級（総合等級）の第1種を所持する身体障害者（心臓・腎臓機能障害のみで該当する者は除く）
- ③ 療育手帳Aを所持する知的障害者
- ④ 精神障害者保健福祉手帳1・2級を所持する者で単身世帯の人
- ⑤ 市の生活支援を受けている難病患者
- ⑥ 上記要件から漏れた者で、自ら避難することが困難で、登録を望む人
- ⑦ 上記以外で自主防災組織が支援の必要を認めた人

「その時」動ける準備を ―石仏町防災支援会インタビュー―

自助・共助という言葉はよく聞く。重要性も何となくわかる。だけど、もし今災害が発生したら、適切な行動ができるだろうか・・・？そんな不安を抱えている人も多いのではないだろうか。

この夏、石仏町では「その時」に備え、実際に動けるように既存の自主防災会をサポートしていこう！という人が集まり「石仏町防災支援会」として活動を始めました。今回は結成総会にお邪魔し、役員の方にインタビューしてみました。



左から堀尾佳弘副会長、後藤照男副会長、堀尾金雄会長、川口徹事務局長、堀尾貞夫顧問（石仏町区長＝石仏町自主防災会会長）

●発足の経緯は？



堀尾（金）…昨年の3月ごろに区の役員経験者の集まりがあり、『区の役員が毎年毎年変わるのだから、私たちの地域をどうしていくか？』などの継続的な取り組みは難しい。OBでサポートできるようなことは何かないか？』という話が持ち上がり、この支援会創設に向けて動き出しました。

●支援会の目標・目的は？

堀尾（金）…自主防災会を定期的に応援できる組織を作っていけるかが課題として挙がっていました。自主防災会本体が円滑に活動するために、その前段でいかに応援できるか、ということを考えています。

●メンバー構成は？



堀尾（金）…結成時点で正式会員は14人。区の役員経験者と、石仏町がずっと築いてきた防火防犯活動をしている石仏町自警団のOB、あとは有志の方により構成されています。川口…自警団OBとしては5人が参

加していますが、区長経験者のみなさんも多くの方が過去に自警団を経験しています。

●自警団や自主防災会との役割分担のイメージは？



堀尾（貞）…自警団はあくまで区長の指示のもと動く部隊。この支援会はOBが中心になる。連携はとるにしても、実際に災害が

起きた時にはそれぞれの役割は異なります。それぞれでレベルアップしていかなければなりません。



後藤…自主防災会の会長はイコール区長であり、その下に救護班などが組織されているわけですが、学校の防災訓練実施のための組織になっってしまったのが現状です。継続的に取り組めるようにしていかなければいざ災害が起きた時に何をやっていいかわからないと思うんですよ。支援会として継続的に活動し、積み上げていき、それを自主防災会本体とうまくミックスすれば、もっといろんなことに対応できるようになるんじゃないかなと思っています。

●支援会の今後の展望や課題についてお聞かせください

堀尾（金）…まず石仏版オリジナル防災マップを作ること、今年の最優先課題としています。また、災害時にどう対応するか？を見据えて、もっとレベルを上げた訓練をしていきたいですね。



堀尾（佳）…会員には働いている人も多いため、地元にはない昼間に災害が起こった際、会員だから活動する・会員じゃないので

活動しない」ということでは対応できないのは目に見えています。区民全員が「自分ができる範囲で何かする」とができるように訓練していくことが大切だと思うんです。こういった会での活動に関わることで、一人一人が災害時に「誰か他の人がやってくれる」という意識から、「私は○○ならできる」と考え行動できるように、みなさんの意識を変えていくことができれば一番いいと思います。

堀尾（金）…自主防災会は全体の先導者、中核として機能する組織。でも実際に動くのは区民。その意識をどう全体的に高めていくか、というのは非常に大きな課題と捉えています。